

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	大強度パルスミューオンビームで解き明かす荷電レプトン間のフレーバー混合
研究代表者	<p>三原 智            (大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所・教授)</p> <p>※平成29年6月末現在</p>
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、ミューオンが電子に転換する過程を探索することによって、標準理論を越える新しい素粒子物理を探るJ-PARC COMET実験の一環であり、科学的な価値は高い。米国の実験との競争を目指す第2段階のCOMET実験の予算措置は未定だが、本研究で電磁カロリメータを用いてミューオンビームを理解し、必要なビームラインの磁石を作ることは、COMET実験の原理を検証して第2段階に進めるための必要条件の一つである。</p> <p>当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であることから、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>